営農技術情報
畑作 No.1

令和５年５月 18 日
十勝農業改良普及センター本所（TEL 67-2291）
http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

秋まき小麦の赤さび病・赤かび病防除

１．秋まき小麦の生育状況

生育は平年並で、茎数は平年より少なく推移しています（表１）。５月２半旬以降、気温が平年並に経過しているため、止葉期は平年並かやや早くに到達する見込みです。今後も生育状況を観察し、防除適期を逃さないように努めましょう。

表1　5月 15 日現在のきたほなみの生育状況（普及センター本所作況調査より）

	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	遅速	これまでの生育期節		
				起生期	幼穂形成期	止葉期
本　年	**30.6**	**1,475**	**＋2**	**4月4日**	**5月1日**	**－**
平　年	31.2	1,882	－	3月 30 日	5月3日	5月 27 日
前　年	34.5	1,584	＋1	4月3日	4月 30 日	5月 23 日

２．赤さび病・赤かび病の防除について

(1) 赤さび病

止葉を含む上位２葉の発病を抑えることが重要です。赤さび病抵抗性が「やや強」以上の「ゆめちから」は、通常、１回目の赤かび病防除との同時防除で対応できます。

「きたほなみ」も抵抗性は「やや強」であるものの近年多発生となる場合があるため、ほ場での発生状況を確認し、適期防除に努めましょう。

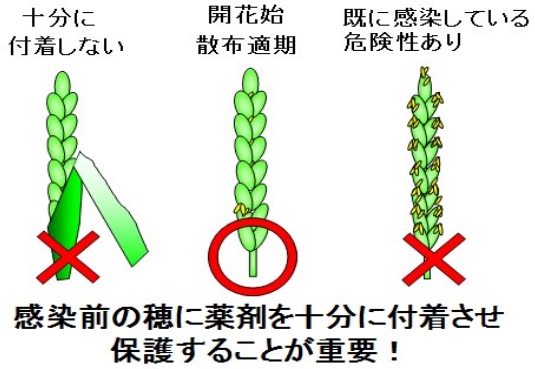

図1　赤かび病1回目の防除適期

(2) 赤かび病

赤かび病の感染時期は開花時期です。防除を始める前に、小麦が出穂して**「開花始（図１）」**を迎えたことを必ず確認しましょう。

表2　赤さび病･赤かび病の防除体系例　　※対象病害：●指導参考あり　○指導参考なし

	防除時期	薬剤名	対象病害		倍率	系統名	RAC コード	使用回数
			赤さび	赤かび				
1	開花始	バラライカ水和剤	●	●	500	DMI･フタルイミド	3/M04	2
2	～7日後	ミラビスフロアブル	○	●	1,500	SDHI	7	2
3	～7日後	プライア水和剤		●	1,000	※1	10/1	2

※１　プライア水和剤の系統名：ベンゾイミダゾール・N-フェニルカーバメート
※同系統の薬剤の連用は避けましょう。
※テブコナゾール（バラライカ水和剤、シルバキュアフロアブル）の使用回数は融雪後２回以内です。
※アブラムシ多発時は殺虫剤（例：ウララ DF4,000 倍、モスピラン SL 液剤 4,000 倍など）を使用しましょう。
※別紙フローチャートも参考にしてください。